

足立区基本構想審議会 第3回まちづくり専門部会 会議録

日 時 平成27年10月23日（金曜日） 午前10時から11時45分

場 所 足立区役所中央館 8階特別会議室

出席者 足立区基本構想審議会 まちづくり専門部会委員（10名）

田中充委員、有馬康二委員、乾雅榮委員、吉田修一委員、田中忠穂委員、
白根澤正士委員、長谷川浩一委員、鴨下稔委員、吉岡茂委員、長井まさの
り委員

事務局：基本構想担当課長、基本構想担当係長、政策経営課長、経営戦略推
進担当課長2名、(株)地域計画連合

オブザーバー：総務部2名、資産管理部1名、地域のちから推進部1名、環境部1
名、都市建設部5名

議題等 1 意見交換

（1）将来像 まとめ

（2）将来像を設定した根本となる考え方（基本理念） まとめ

2 事務連絡（次回の予定）

資 料 【資料 ま⑤】まちづくり専門部会 課題整理及び将来像等検討シート

1 意見交換

基本構想担当課長：おはようございます。お待たせしました。定刻になりましたので、ただいまより足立区基本構想審議会、第3回まちづくり専門部会を開催させていただきます。本日はお忙しいところご出席をいただきまして誠にありがとうございます。田中忠穂委員につきましては、途中でお越しになるとのご連絡を頂戴しております。本日のオブザーバー出席ですが、総務部・資産管理部・地域のちから推進部・環境部・都市建設部の職員です。よろしくお願いします。それでは田中部会長に進行をお願いしたいと存じます。

田中充部会長：おはようございます。よろしくお願いいたします。今日は第3回目の部会ということで、将来像等まとめていくことになるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。それでは配付資料の確認を事務局からお願いします。

基本構想担当課長：事務局から本日の配付資料の有無を確認させていただきます。最初に本日の次第です。続きましてA3版の資料ま⑤と表示のまちづくり専門部会課題整理及び将来像等検討シートです。こちらは前回配付のものの内容を更新したものです。続きまして、資料番号のないA3版の基本構想審議会・まちづくり専門部会意見等を実現・解決するうえでの課題や障害についてというものです。続きまして、委員の皆様には、足立区基本構想審議会の12月以降における開催案内です。ご多忙の折恐縮ですが、ご出席いただきますようよろしくお願い申し上げます。続きまして、こちらも委員の皆様には都市建設部からのアンケート依頼に係る用紙です。詳細は終了時の事務連絡で説明させていただきます。最後に、委員の皆様には参考として、前々回、及び前回の会議録を配付してございます。共に30ページです。

田中充部会長：A3の大きな資料がこれからの意見交換に当たってのメインの資料となっております。

(1) 将来像 まとめ

田中充部会長：それでは意見交換に入りたいと思います。まちづくりとしての課題の整理と、それから今後の将来像のあり方といったことについて意見を伺っていきたいと思います。それではこの資料、ま⑤についてのご説明を事務局からお願いします。

基本構想担当課長：最初に、A3版の資料ま⑤と表示のまちづくり専門部会課題整理及び将来像等検討シートをご覧ください。前々回・前回と意見交換をしていただいた内容を基に論点等を整理しましたが、一番下に区民あだちサロンや中高生ワークショップで出された補足となるような意見も加えさせていただきました。部会としての将

来像、区のあるべき姿、そして基本理念・将来像を設定した根本となる考え方です。これらを本日まとめていただくための案をたたき台としてお示ししました。なお、将来像や基本理念については、12月以降の全体会で、他の専門部会の案と改めて調整や取捨選択等をしていくことになりますので、本日もしも固まりきらなかった場合は、最低でもこのキーワードや考え方は重要だといった提案を残していただきたいと存じます。全体の内容については、後ほど株式会社地域計画連合より説明させていただきます。そして、この資料ま⑤についてですが、本日のご審議の後に再度更新することになりますが、意見交換の内容を区民の皆様にも知っていただくため、基本構想審議会の中間報告のようにして、ホームページ上で公開したいと存じます。時期は、四つの専門部会が揃う11月下旬以降を予定しています。ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

続きまして、資料番号のないA3版の基本構想審議会・まちづくり専門部会意見等を実現・解決するうえでの課題や障害についてをご覧ください。3ページありますが、左側の2列の部分が先ほどの資料ま⑤における専門部会から出された課題を記載してございます。中央の列、青い部分が実現・解決するうえでの課題や障害となる法規制等についての区側の回答です。そして、一番右側の列、その他関連コメントは、区が以前内部で行ったヒアリング結果などから、関連するものを記載させていただきました。全体的には皆様からいただいた意見が全く実現不可能となるようなものはございませんでしたものの、問題解決に向けて取り組むべき内容がございましたので、今後基本構想を策定した後に区が基本計画を策定する際にでも盛り込んでまいりたいと存じます。

それでは、資料ま⑤について、株式会社地域計画連合より説明させていただきます。

地域計画連合：おはようございます。では、前回の模造紙を振り返りながら、今日まとめてまいりました資料⑤についてご説明します。まず前方の模造紙をご覧ください。こちらは第2回で検討をしていただいた内容になります。まず皆様には、まちづくり専門部会としての課題ということで、第1回でご意見をいただいたものに追加するような形で、魅力のあるまちづくりが必要だとか、財源について、また安心・安全に関するものや、交通やワンルームマンションの規制について、こういったご意見を第2回のときに追加していただきました。その内容につきましては、お手元の⑤の資料、左側が課題の欄になっておりますが、黒字のものは第1回で出された意見をまとめたものです。そこに第2回で出された課題を追加したものが赤字になっております。第1回、第2回を踏まえまして、課題の欄も充実させていただきました。

その後、第2回の部会では後半で将来像について皆様からご意見をいただきました。もともと第1回を踏まえて事務局の方で誰もが安心してとか、区の強み・特性を活かしてとか、発展が期待できるまちとか、将来を見据えた計画性のあるまちなどといったたたき台を準備して議論していただいたところに、皆様からまた更にそれを充実していただくキーワードを出していただきました。今回こちらの模造紙を踏まえまして、

右側。お手元の資料の右側の欄になりますが、将来像と基本理念の案ということで、上段の方に将来像、目指すあるべき姿と、下段の方にその将来像を設定した根本となる考え方ということで、どこかに皆様の言葉がうまく入るように、キャッチフレーズの下に説明文を設けるなどして、できるだけこの言葉を組み込ませていただきました。現在まとめた案がこちらとなっております。読み上げてご紹介します。

まずあるべき姿としては、区民にやさしいというキーワードをいただきましたので、付け加えて、誰もが安心して住み続けられる区民にやさしいまちとしています。この中身としては、防災・防犯の面で安全なまちづくりが進められてこそ安心感が得られるといった皆様がここで議論された内容の中に書いています。ただ、キャッチフレーズとして安全を使うべきか、安心を使うべきか。そのどちらが表に出るべきかという議論がまだ残っておりますので、今日はその辺もご検討いただければと思います。

2点目が、足立区の強みや特性を活かした魅力のあるまちというもののなのですが、その中で足立区の魅力として、水と緑といったキーワードも更に追加していただきましたので、文章も他区には見られない豊かな水と緑といったものを付け加えております。

3点目の将来像が、あらゆる区民が協働し進化し続けるまちとあります。こちらは最初のたたき台では発展が期待できるまちという言葉を使っていたのですが、前回の議論の中で進化する、地域に還元する、地域が発展するなど、より前向きになるようなキーワードをいただきました。そのため全面的に変更しまして、あらゆる区民が協働し進化し続けるまちという言葉に変更しております。

4点目の将来像が、将来を見据えた計画性のあるまちということで、こちらは全体的に出てきた還元などを使いながら、その内容についてまちづくり部会にふさわしい言葉として整理しました。

これらを設定した根本となる考え方。どの柱にもつながっていくような大きな考え方として今のところ2点挙げさせていただいています。まず一つ目がコミュニティ、絆や地域力のあたりから地域力という言葉を取っております。もう一点が区民にやさしいといった言葉が来まして、ユニバーサルデザイン、こちらは理念的な言葉ですので、基本理念の言葉の一つとして整理しております。まちづくり専門部会のご意見をまとめたたたき台として、現時点ではこのようになっておりますが、今日はこれをベースに修正をいただいたり、もっと膨らませていただいたりするようなご議論をお願いできればと思います。

あとは下段の方に、区民あだちサロン、及び中高生ワークショップから出てきた足立区の将来像のキーワードを書いております。審議会におかれましては、区民参加で得られた意見も踏まえてご議論いただくことになっておりますので、今回あえてこちらを掲載させていただきました。もしよろしければ、この下の区民の皆さんからの思いも少し踏まえた上でご議論をいただければと思います。

田中充部会長：ありがとうございます。まずA3の1枚の紙のご説明をいただきま

した。私の理解では、このま⑤で左の大きな四角の中で、今までの部会の中で出された課題が整理されており、大きく分けて8点ほどあるということで、黒四角のものがあるということです。おそらくこちらはこの部会でも確認をしましたし、また行政にも見ていただいているわけですが、およそ足立区が直面している課題が網羅されていると理解しています。

こちらを踏まえながら、将来ではどうあるべきかということで、右の方に矢印がありますが、足立区の将来像ということで、こちらを四つの方向性にまとめていただいたことになります。安心して住み続けられる区民にやさしいまち。2番目が足立の強みや特徴を活かした魅力あるまち。三つ目が、区民が協働し進化し続けるまち。4点目が将来を見据えた計画性のあるまち、以上四つの方向に整理をしていただいたと思います。

こちらを横断的に、あるいは根本となる考え方ということで、右下、一番下になりますが、基本理念ということで、地域力というキーワードとユニバーサルデザイン。このユニバーサルデザインというキーワードが少し分かりにくいかもしれませんが、ユニバーサルというのはあらゆる人々が普遍的にという意味だと思いますし、デザインというのは広い意味での環境ですね。都市環境ということだと思います。すべての人が普遍的にそこに住み続けることができるまち・都市環境ということだと思います。このような二つのキーワードで整理したのですが、見ていただいて、まずどこからでもかまいませんので、本日の部会でのある種の到達目標は、足立の将来像という四つの柱をある程度固めていきたいです。それからできればその基本理念についても、どういうキーワードが望ましいかということを確認しておきたいです。審議会の方に最終的には報告をして、そこでまた議論をしていただくということになるかと思います。このあたりを中心にご意見を出していただければと思います。

あともう一つ私の理解ですが、A3版の2枚組のものがございまして、こちらは裏表になるので3ページでしょうか。こちらは行政の方で確認をしていただいたものです。つまり、専門部会でいろいろ出された、例えば担税力のある若者世代の転入を促進するとか、高齢者が安心して暮らせるとかということを実際に進めるためにはどのような規制があったり、まちづくり上の課題があるかということや青色で網掛けをしていただいたところが、行政上の課題ということになるわけです。ですから、まちづくり、例えば高齢者が安心して暮らせるまちづくりということを進めるとなると、バリアフリー計画である、ユニバーサルデザインだとか、あるいはコンパクトシティとか、こういったキーワードを進めていかなければいけないということで、行政課題を整理していただいたというものかと思います。ですから、ある種の実現可能性ということになると、かなりこのあたりを意識していかなければいけないし、おそらく基本構想から次の計画に至る段階で、こうした課題や障害をクリアしていくところに、この基本計画の段階でこれらの課題が反映・投影されていくことになるわけです。

どうぞ、もう一度振り返っていただいて、特に資料のま⑤を中心にしながら、どこからでもかまいませんのでお出しいただきたいと思います。

吉田委員：こちらに書かれた内容は大体網羅されている気がします。どれがよいか、悪いかということになるとまず足立区が世間から治安が悪いと言われています。現在いろいろな形でやってはいますが、まだ治安が悪いのではないかという点を何とか払拭しなければいけないのではないかと思います。ここに書いている誰もが安心して住み続けられるための将来像を考えた場合に、まず初めにやらなければいけないのは、防犯・防災だと思います。

田中充部会長：誰もが安心して暮らせるまちというところで、将来像の一つ目の丸に関連したご意見についてでした。他にいかがでしょうか。今出た中で、安全・安心のどちらを使おうかというのも、問いとしてあるわけですがいかがでしょうか。

吉田委員：それは両方、どちらも間違いではないと思います。ですから、並べてもよいのではないかと思います。どちらにするかという、安心の方がよい気がします。やはり心が安らかでいないと駄目だと思います。ただ、建物の危険性などといったことから考えると安全も含まれるのですが、どちらを選ぶかという、私は安心だと思います。

田中充部会長：最終的にはその人の気持ち、安心だという安定感、信頼感が必要だということかと思います。

乾委員：安心か安全かというところで、安全でなければ安心できないという点から、どちらかといえば安心ですね。安心して住めるまちではどうでしょうか。

田中充部会長：吉田委員から安全・安心というのは両立するもので、どちらか片方だけを排除することはないのでは、いかがでしょうか。どちらかといえば安心だということかと思えますし、乾委員も同じような趣旨のご発言かと思えます。他にいかがでしょうか。課題の整理の仕方に戻ってもかまいませんし、このような点が抜けている、落ちているということがあればそれでもかまいません。いかがでしょうか。

有馬委員：安心・安全の件ですが、最近は急速に区内の安全は良くなっていると思っています。私の住んでいるのは花畑で、竹の塚署の署長さんが今度本庁にお帰りになりましたが、足立区の犯罪が急激に減ったことは警視庁の七不思議ですねとおっしゃっていました。それは自転車の盗難が減ったということらしいのですが、大変すばらしい数字であります。

田中充部会長：他にいかがでしょうか。その他の将来像、あるいは課題の整理ということではいかがでしょうか。

鴨下委員：基本理念というところで、地域力と書いてあるところがありますが、従来からずっと言われていることでもあって、なかなか実現が厳しいというのが1番目のところで、町会・自治会における熱心な活動ということはよく分かるのですが、現実的には、各町会・自治会の様子を見ると高齢者ばかりで、1人の方が何役も兼ねているということがあります。組織というものは言うならば老壮青というところがあって、壮のところが一番多くなければいけないのですが、壮と青が少なく、老ばかりで同じことを毎年繰り返していればよいという感覚で動いており、行政的にも各団体で突っ込んだ話ができないというようなこともあるようです。各町会・自治会にお任せしっぱなしというところがあるわけです。そのため、若い人たちにも、大勢の方が入りやすい環境やムード、雰囲気というものをつくるためにはどうしたらよいのか。壮のところを増やすためにどうしたらよいのかということを考えないと、熱心な活動であっても、お題目に終わるのではないかと思います。そこをもっと切り込んでいくことがあってしかるべきだと思います。

田中充部会長：区民参加といっても、いつも同じ顔ぶれなり年齢層が出てくるということでしょうか。もっと若い人、あるいは働き手の人があるところに参加して、まちづくりの意見に反映できるようなことを促す仕組みが必要であるということですね。

鴨下委員：提案ですが、役所の担当窓口から各町会・自治会、四百いくつあるわけですから、そのようなところにどのような町会・自治会を求めているのか、一度投げ掛けて皆さんの意見を伺うことも必要だと思います。

有馬委員：加入率に関しては、現在確か57%となっています。ですが、どの世代も地域のために働きたいという気持ちが六十何%と聞いております。しかし高齢化になりましたので、70歳代の方は人のお世話はしたいけど、例えば町会に入りましても、いろいろな当番・年番が回ってきます。私のところでは、交通安全のテントにも出なければなりません。それから宮掃除も出なければなりません。人の役に立ちたいけれども、自分たちの体が思うようにならない。ですから、気持ちはあっても出られません。出ないと非常につらいので、3年ぐらい前に辞めたいという方が複数、正確には3軒ほどありました。やめた方々の元へ行きまして、どうしてかと聞きましたら、もう高齢になったので年番ができない、班長ができないなどで辞めさせてほしいとのことでした。そこで私の町会では規約を変えまして、単身者の方、若くてもご夫婦がお勤めだとなかなか年番が組めないの、単身者、そして75歳以上の高齢世帯の方は、申し出により年番を免除されるということを今から2年前、平成25年度から始めました。そこで今の辞めたいという申し出の方もとどまりました。

いろいろなやり方がありまして、子どもが多い方は、最近自分の地域で480世帯おり、子どもが100人います。区画整理が終わりましたので、非常にまちがすつき

りし、若い人が越してきました。子どもたちも増えたのですが、やはり町会にすぐ入ることはしません。ただし、うちの町会は平成27年度から、子ども会には必ず入ることになっており、子ども会は町会の青壮年部の下部組織であるという位置付けにしています。町会に入っていないければ子ども会に入れないということで、皆さんが加入していただくようになっています。

田中充部会長：今、自治会活動の実態をご紹介いただきました。地域力というキーワードについて意見が出されました。

鴨下委員：有馬会長からお話が出ましたが、各町会が独自の組織で動いているため、考え方とか行動の仕方がみんな違うところがあります。有馬会長が言われたように、自分の地域は分割するようなどらえ方が非常に多いようで、子ども会に入らないとお祭りのときに自分の子どもだけ参加できないのは嫌だから入っています。そして、ある程度の年齢になり、小学校4～5年ぐらいになり、そういったところにあまり出なくなると子ども会も退会し、町会も入らないという、いいところ取りをする考え方がある、そのあたり割り切りが非常によいのですが、それはどうかというところがあります。それと同時に入ってくださいと若い人たちに言うと、我々が入るような雰囲気ではないから入りにくいし、そのような人たちが辞めるようになるまでは頑張ってもらったらよいというさじを投げるような言い方をする人もいるわけです。そのあたりで非常に嘆かわしい問題があります。

地域のちから推進部地域調整課長：いろいろと町会のお話が出ていますが、現在437の町会・自治会があります。委員がおっしゃったように、若い方がなかなか入らない状況です。やはり地域のコミュニケーションがなくても生活が成り立っており、必要性を感じない方が多いということがあると思います。地域コミュニティが非常に大事だということを訴えるべきだというのが事務局としても考えているところです。町会によっては、今有馬会長がおっしゃったように、いろいろなことをやっている町会もあれば、厳しいところもあるということがあります。それはいろいろな地域の課題があって、活動が難しかったり、先ほどお話があったように高齢化していて活動ができないなど、そういったことがあるのが実態です。

吉岡委員：高齢化されている方の代わりにどなたかが仕事を受け持つというお話だと理解したのですが、その代わりをやる方々はいくらか世代の若い方になるのでしょうか。

有馬委員：そうですね。

吉岡委員：まだ会長の町会はバランスが取れているのだと思います。ただ、残念ながら

らそうでない町会がかなり存在しています。下手をすると学校のPTAなり、子どもが通っている学校の役員さえ逃げ回っていらっしゃる方が大勢いる中で、町会活動・自治会活動にどうやって巻き込んでいくのだろうということになりますと、それぞれの組織の町会なり、行政もそれ相応の知恵を絞らないと、なかなか今の若い人は入ってくれないという現状があります。やはりそのあたりはもう少し、我々行政としても、入ってもらえるような何かおいしいものをぶら下げるなどでしょうか。

実は、かつて批判はありましたが、こういうことはどうなのだろうと申し上げたのは、町会に入っている方々は、もちろんごみ当番みたいなものがあります。網を張ったり、プラスチックの桶を出したりということをやって、それで町会費を払って、更に避難所の運営会議などに参加をして、更に交通安全週間のときなどはテントに入るという活動をしています。その一方で町会に入っていない方々は、一方的にごみを捨てて一方的に主張をし、何かことが生じたときに避難所に入ってきて、それはいかなものかということ、もうずいぶん前ですが、決算委員会か予算委員会か忘れましたが発言されていました。そのあたりには大きな問題があるということだった中で、私は負のものを提案してしまったのですが、そうではなくてプラスになる何かアイデアが必要です。皆さん若い人たちにも、それはよいのではないかと食い付いてもらえるようなことをぶら下げないと、なかなかやってくれないのではないかと現実的には感じています。

ただ、では具体的にどういうことと言われると、まだそこまでの知恵が出ていないというのが現状かと思います。そのあたりが解決できる知恵を絞れる足立区にしていかなければいけないと思います。具体的な提案はできませんが、ただそういう気持ちで若い人たちにも町会に参加してもらうことが大事だと思います。

鴨下委員：行政批判にもなりますが、回覧板とか掲示板といったものがあまりにも多すぎると思います。従ってそれを担当するのは、町会の中でも総務部とかで、やっと終わったと思ったら、また1週間で次のものがということがあって、それがみんな行政から流れてきます。我々は役所の下請けではありません。もう少し精査して、最低限必要なものを吟味した上で出すべきであり、何でもかんでも流すのはとんでもないとたまに怒られるときがあります。もう少しボランティアでやっているのだということを行政そのものが真摯に受け止めていかなければなりません。役所の人間はみんな給料をもらっている中で、情報を上から下に流すだけで、なぜ我々区民がやらなければいけないのかという言い方をする人もいるわけです。

田中充部会長：今、特に地域の活動のあり方について、いろいろな工夫ができないかという話から始まって、議論がかなり進んできているのですが。一つはインセンティブを付けたらどうかという話がありました。それからもう少し行政も工夫が必要だというお話です。行政の立場で町会・自治会を使う、あるいはいろいろな情報を流すときに、そのところの取捨選択の工夫が必要だという話があったかと思います。それ

から有馬委員からは、実際の町会活動を進めていく上での課題で、結構高齢化が進んだり、負担をいとう住民もいるので、なかなか一律には行かないという話もあったかと思います。この町会活動の話は、他の部会でもこちら重なるんでしょうか。まちづくり部会以外に暮らし部会とかがあるんでしょうか。

基本構想担当課長：暮らし部会はまさに町会活動をお願いしているのですが、地域コミュニティというところでは皆様に有意義なお話し合いをいただいています。例えば、暮らし部会でも町内会の高齢化が問題になっていますし、未加入の方や、今回まちづくり部会で出ているワンルームマンションの問題あたりが暮らし部会に出ているという話もあります。

少しユニークですが、SNSが今ありますので、そういったものを活用して町内会の活動を活発にしたりとか、イベントをもっと多くしたりとか、そういった話題も出ております。

長井委員：もう一方の視点ということで、今足立区には5大学あって、次に文教大学が来ます。東京六大学と言われているんですが、今度は足立六大学だとおっしゃる方もいます。そうした大学生との連携や、また地域で少子高齢化の中で、そうした若い世代の手が足りないところに大学生とのコラボといったこともありなのかなという思いがいたします。

またもう一方で、担税力のある若者世代を足立区にしっかり定着していただくということの一つの視点として、先だって決算特別委員会の中で会派を超えて要望したのですが、ソフト的な面で、例えば待機児童の解消ということも非常に重要な視点で、足立区内の保育園に勤めている保育士さんに対しては、家賃を補助して保育士さんを確保していこうという施策も提案させていただきました。またもう一つ、奨学金制度で、今借りて一生懸命勉強して、後から返済をしていかなければいけないという状況がありますが、例えばある一定の条件を踏まえた上で、給付型の奨学金ということも検討していく必要があるのではないかなどがありました。また返還免除型ということも一つの制度として、こちらはソフト的な面ですが、そうしたことで足立区に定住をしていただいて、そして子育て世代への応援施策ということで、またその中で地域との絆も深めていただきながら、町会活動や地域の活動にも参加していただけるように、その施策の中で何か組み込んでいけないかなという思いがいたします。

田中充部会長：特に若者世代を定着させていくというのでしょうか。子育て世代の定住者をかなり多面的に、子育て世代も含めて行った方がよいというご提案だったかと思います。冒頭には大学生について、足立に新しい大学が入ってくことをきっかけに、大学生と区民、あるいは行政とのコラボレーションのようなことも考えるという視点が必要ではないかというご指摘かと思います。

長谷川委員：私もいくつかのボランティアグループに足立区で所属をしてもう10年近く活動をしております。ボランティアグループというのは、足立区の中でお年寄りから若い人までいろいろな方が活躍していますが、やはり根本に自分が好きなもので役に立つ活動をしようにという気持ちが非常に強いし、その中では少しの犠牲も持って対応をしようにという気持ちもあるように思います。審査もあって、たくさん自分でプリントまでつくってやっておられるようなところも見られるようです。その上最近、行政から65歳以上の人は元気ポイントというポイントをいただいて、それを励みにされているボランティアの方もいらっしゃいます。

逆に、住民、もしくは町会員の1人として、やはり町会のいろいろな役割の場合、ボランティアが少しワクワクするような意識があまり感じられないところがあるのではないかなと思います。そのあたりをうまく取り入れているような町会と、沈んでいる町会とがあるのかもしれませんが、ワクワクするようなやり方というのを考えるとよいのではないかと思います。

先ほど出ていた話からすると、基本理念を考える上でも、悪い点を払拭するような話がありましたが、マイナスをゼロに持っていくような活動というのは、誰もがあまり好きこのんでやりたがらないのですが、少し際立ってきてプラスのものを更にプラスにしていこうという活動というのは非常に盛り上がる感じがします。そのあたりの旗振りということも含めて、孤立ゼロプロジェクトなんかに私も少しかかわりましたが、そのようなところで役所の手の入れ方も地域に対してもう少し深いところまで手を入れていただけると、プラスが更にプラスの方へグッと伸びるのではないかと思います。

田中充部会長：具体的にボランティアがワクワクする仕組みだとか、プラスを更に広げるような取組みで、よいアイデアがありそうですか。

長谷川委員：私は具体的に日本語のボランティア教室を10年近くやっております。最初は区の支援講座があって、そこで定年になってから、外国人に日本語で教えるという役所からのご案内に賛同して、実際にやってみて、自分の勉強にもなりますし、それから自分も更にもう一回日本語を勉強してみようということにもなりました。やはり好きこそというところと、犠牲的な面を含めてやろうというのが長続きすることかなと思います。こちらは自分の体験談からそのように思います。

田中充部会長：町内会でボランティア活動と協働、コラボレーションがうまくできていないといった趣旨も入っていたかと思います。

吉岡委員：自分の地域の町会の中では、警察官の社員寮というのがあります。こちらは20年未満の比較的若い世代の家族寮になっています。こちらは町会からは入ってくれといった経緯はないそうです。ただその一つの固まりとして、町会で子どもたち

もお世話になっているのだから、積極的にその町会の事業には参加しなさいということで、若いお父さん、お母さんなので最初は嫌々の参加なのですが、例えば運動会などにしてみれば、気が付いたら一生懸命やっています。この間も盆踊りをやった際、若いお母さんたちも率先してお手伝いをして、お客様の接待などに当たっているということもあるという現実を踏まえると、それが行政なのかどこか分かりませんが、どこかでそのようなムードをつくってしまうのです。そうすると、最初は半強制的なイメージかもしれませんが、行ってみたら案外楽しいということになります。いろいろな人と友達になるし、幸せになるし、子どもたちも喜びます。このように何か仕掛けをしていくべきだろうと思います。

繰り返しになりますが、ではより効果的な仕掛けがどこにあるのかということについては、やはりいろいろな立場の方々が知恵を出し合ってまとめていくしかないだろうと思います。

白根澤委員：先ほど大学のお話が出た中で、こちらも漠然としたところで申し訳ないのですが、例えば足立区にある大学の図書館を区民の方が使えるなどです。あとは取っかかりとして人的活性化を図っていくというようなことです。あとは、こちらはまちづくりとはそれるかもしれませんが、足立区に企業という形で誘致し、担税力と絡めるのはどうでしょうか。何かしらの定住を促すようなことが頭に浮かんだので発言させていただきました。

田中充部会長：足立にある大学の施設を区民が利用できる、あるいは、足立区の中の施設を大学の方に利用してもらうという双方向の協力のあり方があると思います。実際にこういったことは行われているのでしょうか。

資産管理部資産活用担当課長：大学の図書館ということであれば、北千住の東口の東京電機大学は登録制ではありますが、区民も利用できるということで、専門書も充実しています。そういった意味ではかなり利用率が高いと聞いています。

経営戦略推進担当課長：2020年前後に文教大学の新キャンパスをいただくのですが、現時点で文教大学は地域に開かれた図書館、地域に開かれたキャンパスを計画していきたいという意向もあるようです。そのような部分は大学のニーズと地域のニーズをうまくマッチングさせるような働き方が行政にできればと思っています。今もこれからも進めていきたいと思っています。

あともう一つ、企業という話があったのですが、例えば大学は学生だけではなく、教員だとか職員という部分では、そこで働く人たちが結構集まっています。東京電機大学もかなりの先生がいらっしゃいます。本部も入っていますから、事務員も含めてという形になりますと、かなり来訪者も含めた企業の事業所という部分では、大学というのも一つの事例になるのかなと思っています。そういった部分で北千住が少

し発展しているのかなと考えています。

乾委員：自分のところでは11月に女性フェスティバルというのを毎年行っているのですが、今年初めての試みで、未来大学の学生さんたちのブースを一つ設け、産学協同で開発したお菓子を販売していただくことになっています。初めての試みで、若い方が女性フェスティバルに来てくださるということで、みんなワクワクしております。自分の団体は30周年を迎え、だいぶ高齢化してまいりましたので、若い方の参加を大変心待ちにしているところです。第一の取っかかりかなと思っています。今後もそのような形で、大学とのコラボレーションをやっていきたいと思っています。

長井委員：私も地元の地域で中学校のPTA会長をさせていただいたことがありまして、それまでは地域の方との接点というのがほとんどなかったという時代がありました。そのときから町会・自治会長をはじめ、また地小協や地区体、女性団体の皆様との交流を深めていく中で、地域のためにこんなに頑張ってくださいのだという感動もありましたし、触発を受けた思い出があります。大学生がそうした地域の活動と一緒に参加していく中で、若いときから地域に根ざした活動というのを身をもって体験できるすばらしい機会であると思います。そういった大学生との連携を何かの形で今後も進めていければと思います。地域性はあるとは思いますが、その地域の特性を活かして、どのように取り組んでいけばよいのかもしっかりと考えていきたいと思っています。

田中充部会長：さて、一通りご意見をいただいて、区民同士の協働といったこともありました。それから事業者や行政もかかわるということもあったかと思います。整理されたこちらの資料で行けば、四つの丸の中の三つ目の丸、あらゆる区民が協働して進化し続けるまちという方向性が出ています。しかしこうやって整理されてみると、なかなか足立区の特徴がどこかということが若干薄れているような気もするのですが、しかし抽象化するとこういうことかなという感じがしないわけではありません。いかがでしょうか。まちづくりに関する足立区の将来像は、ハード・ソフトのまちづくりの面で、四つの方向で今整理されていますが、こんなところでいかがでしょうか。もし追加するような点や、あるいはこの表面上、あるいは文言について、もう少し強調した方がよい点があればぜひお出しいただきたいと思います。

吉田委員：新しいものをつくるとか、あれをつくるといったことを考えると、やはり財政的に問題があるため、現在あるものを伸ばしていきたいという形で考えてはどうでしょうか。今あるものを活かした形で伸ばしていくという方法を考えれば、この進化ということがしていける気がします。

どうしても目新しいものだけをやれば目立つし、また効果的に発展していくとか、いろいろなことがあると思うのですが、それよりもやはり地道にできる範囲のことをまずやるとすれば、今あるものを活かすという考え方が必要だと思います。

田中充部会長：今あるものを伸ばすということはハードの面でもソフトの面でもあるかもしれませんね。

乾委員：足立区の強みや特殊性を活かしたというところで、水と緑について、例えば、鴨川の棚田をライトアップして観光的に何かするというのをニュースで見たような気がします。きっと数十年前にはただの田んぼだったと思います。ですから、23区内でとてもオアシス的な足立区をつくっていったらどうかと今ふと思いました。ホッとできるまちというのはどうでしょうか。

田中充部会長：棚田のライトアップというのは区内ですか。

乾委員：いいえ。それは千葉県鴨川市でやっています。

田中充部会長：先ほど吉田委員から、今ある施設やものを活かしていくということでしたが、計画性のあるまちというところにつながっている気もします。あるいは強みや特性を活かしたというところもあるかもしれません。

鴨下委員：特性を活かした魅力あるまちということで、その中では一生懸命やっているのかもしれませんが、それがそこから伸びていかない部分です。他のところでは、そのようなことをやっていることも知らない団体が多いため、やはり全体的に把握ができて、いろいろな場面を知っているというのは、行政ではよく分かっているの、特に地元とのパイプを強め、ここではこんなことをやっているということを伝えたりすれば、幼稚園のお父さん、お母さんたちもやってくれる可能性があるわけですから、そういった情報を提供してあげることが一つのきっかけになる気がします。

吉岡委員：鴨下委員がおっしゃろうとしていることですが、要するに足立区が中心になってさまざまな団体、例えば町会・自治会連合会など、さまざまな組織と足立区が中心になって情報発信をしてくれているのは間違いありません。ただ、それを一つの枠の中で、では何かの場面で、それぞれの組織、例えば議会の代表者でもよろしいですし、町会の代表者でも何でもよいです。女性団体連合会の皆さんでもよいです。テーマによって行政が中心になって、一度何かの場面である程度取り巻く組織の人たちと一緒に呼んで、そこで議論する場面がほとんど現状はないわけです。区が中心になっているため、それぞれの組織とのやりとりはできていますが、その一本釣りした組織とやりとりができていても、全体のやりとりがおそらくできていません。そうすると、我々の方も他の組織の皆さんがどんな現状を抱えているかも情報が限られてしまいます。そのあたりの問題は、今後しっかりと取り組んでいく必要があると思います。そうでないと、きちんとした協働というのが果たせなくなるわけです。そのしっかり

した情報を伝達する機会を作るということが、おそらくこの協働を更に進化させる大きな原動力になる気がします。

田中充部会長：私の理解で、鴨下委員がおっしゃったのは、魅力あるということをきちんと情報発信して、区民が自分のまちはこういうところだということをきちんと理解したり、あるいは認識をすることが足りないのではないかということでした。だから、足元の魅力なり特性ということが押さえきれていないのだということです。このような趣旨の発言があって、それを聞いて今吉岡委員と同じような文脈で行けば、いろいろな団体が縦割りになっているの、横との連携がないとのことでした。そのような意味では情報の交流がないのではないかということでした。区に情報が一極集中的になっているのだけれども、むしろそれはそれとしても横同士の何か連携、情報共有のようなことの基盤づくりが必要ではないかという趣旨のご発言でしたでしょうか。

おそらくこちらは区民が協働、あるいは足立区の強みや特性を活かすということの大きな前提になるようなご指摘だったかと思います。こちらは先ほどのオアシス的なという発言がありましたが、区民がホッとできるようなまち、魅力のあるまちというもの。つまり、気が付かない魅力を引き出していくということでしょうか。そのようなことも必要でないかというのが乾委員からのご指摘でした。

他にいかがでしょう。この部会でもあったと思うのですが、区の中にさまざまなお宝があるのではないかとのことでした。個人が持っているお宝、あるいは古くからお家にあるお宝もあるそうです。足立区の強み・特性を活かした魅力あるまちの中に入っているのでしょうか。豊かな水と緑という自然系のことが中心なのですが、もう少し歴史とか文化、あるいは資産といったものもあると思います。

有馬委員：現在、1970年代にできた都営住宅の再生、建て替えの時期になっています。私の地域でも毎年新しく建て替えておりますが、こちらを今までのような都営住宅という形ではなくて、シェアハウス、コレクティブハウスのような形も取り入れたら面白いのではないかと考えています。プライベートな空間と共有空間を別に設けて、若い人も外国人も高齢者も一緒に建物の中で、場合によっては団らん室に行ったり、食堂に行ったりという形の都営住宅も面白いのではないかと考えています。こちらはもう40年、50年ぐらい前にオランダやイギリスなどのヨーロッパで採用されています。あれをやってみる価値はあると思います。

田中充部会長：そのような事例は今、公団や都の住宅づくりで試みられていると思うのですがいかがでしょうか。

都市建設部住宅課長：シェアハウスというくくりでお話をしますと、昔でいう公団住宅、今のURの賃貸住宅では、シェアハウスというよりはシェアルームという制度で、

一つの住戸に2人などが住むというケースがあります。都営住宅におきましては、いつときシェアハウスです。若年層向けにシェアハウスをしてはどうかという話があったのですが、今のところはその話がないということです。公営住宅でシェアハウスをやるとなると、もともと公営住宅は低所得者向けの住宅ということなので、なかなかハードルが高いのですが、今私どもでも基本構想の策定に向けた場で、同時に住宅に関するマスタープランの改定もしております。その中で、シェアハウスのことについて、足立区の魅力ある住宅づくりとしてどういったものが必要かということ、これからじっくり検証していきたいと考えております。

田中充部会長：シェアハウスというのは、また別の文脈で使われることもあって、かつて問題になったのは、非常に劣悪な環境、仕切りの中で小部屋の的にシェアしていくというものがあったのですが、今有馬委員がおっしゃった提案というのは、もう少し積極的な意味合いで、プライベートな空間をそれぞれ持ちながら、同時に集合的な、あるいは共有スペースを活用して、つまり、人々が孤立しないで、かつ触れ合いながら暮らしていく。そのようなあり方をご提案されたかなと思います。確かにそのようなものはありますね。

おそらく、さまざまな人々が住もうということになると、同時にその意味でも安全・安心をどのように確保するかということと対立する概念もあろうかと思います。

乾委員：都会のオアシスと申しましたが、足立区には都市農業公園というものがございまして、足立区で農業を続けていけるようなシステムを緑被率というところでは、農業というのも貢献していると思います。例えば、あだちまつりのときに一番行列ができていたのはJAの産直で、区内でできた野菜の売り場だったように思います。全体で見ても、道の駅の野菜、産直のところは本当に人気で、遠くから車で来るところもあります。採れたての野菜が食べられる都会というのも少し付け足しておきたいと思います。農業を続けられるような施策をぜひともお願いしたいと思います。

田中充部会長：大事な視点ですね。足立区は確かに例もありますし、農業も比較的23区の中では活発な地域ですね。

田中忠穂委員：確かにあだちまつりでは自分のブースが非常に人気ですが、JAとしては地産地消という考え方で、区内でできた農産物をできるだけ皆さんに安く新鮮なものを提供するように今考えて行動しております。今、足立区には農協の支店が六つありますが、こちら全部で即売会をやっております。そのようなわけで、農地をどのようにして守るかということは、私たちも非常に苦労しているところなのですが、一番大きな問題は、なぜ農地が減るかといえば、こちらはすべて税制の関係です。相続があったときには必ず農地が減るということで、税制が改正されない限りは農地は減ってしまうということなので、区だけの税制改正ではなく、国の政策なので非常に難

しいと思います。農地はあらゆる面でいろいろな機能を持っています。災害があったときの避難場所にもなりますし、通常の緑の空間として、心の癒やしなどにも貢献をしているわけです。私たちの農地をどのように守ろうかということで、日夜苦勞しているところです。

でも、農地のあるところというのは、東京都区部の中では周辺区しかありませんから、こちらは一つの特徴だと思います。ですから、何とかして農地を残したいとは思っているのですが。こちらは農地があることは区として一つの強みだと思っております。

乾委員：後継者の問題もあると思うのですが。

田中忠穂委員：後継者にはいろいろあります。Uターンして一般企業に勤めた後に、お父さんが高齢になったというので戻ってきてやる方もいらっしゃいます。後継者というのは、私たちにとっても大きな問題なので、できるだけ後継者育成のために努力をしているわけです。ただ、新規にIターンといって他から来るようなケースはほとんどありません。土地が高いですから、Iターンはできません。Uターンは多いです。今、認定農業者、それから農業者リストというのは436名今いるのですが、その中でUターンしたという人はかなりおります。ですから40代、50代の後継者もかなりいます。ただ、農業をやっている人は、70から80ぐらいの方がほとんどなので、大変苦勞しております。

田中充部会長：さて、いかがでしょうか。いろいろご意見をいただき、皆さんからいろいろな観点から見ていただいたかと思います。まず1番目は、誰もが安心して住み続けられる区民にやさしいまちという方向性が出ています。安全・安心というのは、安全があって安心があるのだということでも、安心というのがよいのではないかというのは先ほどのご意見であったところです。安全・安心というのを並列して使ってもよいのではないかとのことでした。誰もが安全・安心して住み続けられる区民にやさしいまちということでしょうか。ここにはおそらくいわゆる防災面に加えて、防犯でしょうかね。それからもっと言えば、高齢になっても安心して住み続けられるというある種の高齢化社会への対応のようなことも入っているのだと思います。かなりこちらは安心・安全というのは、ハードに加えてソフトも含めるということですので、非常に幅広い施策が入るように、体系化していく必要があると思います。

吉田委員：今のところですが、安全・安心と両方並べたらよいのではないかと思います。そうしないと、安全を入れることによって、防犯とか防災が全部含まれてまいりますし、安心のところでは少子高齢化のいろいろな対策も入りますし、いくらか幅が広がると思います。

田中忠穂委員：今の件ですが、やはり安全・安心の並列がよいと思います。一つは、独居老人が今足立区ではかなり増えております。安心がないと独居老人の世話はできないと思います。特に孤独死をしているケースが非常に多いものですから、安全・安心という二つの並列の言葉がよいと思います。

田中充部会長：ではそのあたりはそのように方向性を変えていくことにしましょう。

それから二つ目ですが、足立区の区の強み、特性を活かした魅力あるまちということです。ここで想定されるのは水と緑という話がありました。先ほど農地ということもあったし、あるいはもう少し広い意味での魅力。足立が持っているポテンシャル、魅力というのもあるでしょう。水と緑、あるいは農地、こうしたさまざまな機能や雰囲気を活かして住みたいと思える場所、人が集まるまちを目指すということです。そうした区の強み、特性を踏まえて、そこに人々が集まってくる。特に若い人が集まっていると思いますが、老壮青という話もありましたが、高齢者から若い人まで人が集まり住み続けるというまちかなと思います。

有馬委員：課題の３番目にある自然資源や環境対策などの強みを活かしたまちづくりが求められているとあり、川を活用したリバーステーションとあります。少し補足ですが、物資輸送機能の強化とありますが、こちらは防災・減災も含めまして、人も入ると私は思っています。

田中忠穂委員：人が集まるまちといいますと、こちらはどうしても若い人を呼び込みたいということなのですが、こちら今江戸川区では若い人向けの施策を区が推進しています。それで、千葉県に住んでいた若い人たちが、子どもが生まれたときには江戸川区に来るようです。要するに子育てに対しての非常にやさしいまちだというのが今定着しているのです。区がやはり施策をする必要があるのではないのでしょうか。人を集めることは非常に大切なことで、できれば若い人を集めます。こちらは行政の問題なので、この場にはふさわしくないと思いますが、そういうことも将来考える必要があると思っています。

田中充部会長：有馬委員から、川を活用した物資の輸送と人の輸送について、船便のようなものを考えたいと意見が挙がりました。おそらく川の利用については、免許や認可が必要だと思いますので直ちにはできませんが、何かそういうことは十分に、特に足立は川に恵まれたまちですから。こちらはおそらく次の基本計画を考える上で、そのような課題が出てくるのだらうと思います。

それから、今追加で田中委員から話が出ましたのは、特に若い人を集める、あるいは集まるようなまちにすることがある種のまちの活性化であったり、にぎわいであったり、安全の話にもつながるソフト施策を打ってはどうかという話かと思います。趣旨としては、おそらくそのようなことがこの中に含まれていると思いますが、強調

しておきたいと思います。

鴨下委員：江戸川区が進んでいるということですが、お子さんを育てるときだけつまみ食いされては困る気もします。子どもができたときに、八潮、三郷、草加など埼玉県サイドから、自分たちのところよりも子育て支援、保育等々が非常によいということで、本籍と住所をうまく使い分けてこちらに来るということがドッとありました。そのとき、前の区長といろいろ話し合うことがあったのですが、こちらを基に戻さないとまずいだろうということで、来た人にとっては、行政というのはそうではなく、最低でも5年、10年やらないと、その人たちにとって大きな不幸が始まるということで、区政は儲かるからやって、儲からないからやらないわけにはいかないと言われたことがあります。ただ、つまみ食いをされて、子育てが終われば本籍、千葉県に戻るようなことになるのはどうでしょうか。江戸川区の施策が何年目か分からないのですが、そのようなことがないような施策であればよいのですが、懸念もあります。

有馬委員：確かにそのような懸念はあると思います。それでも、5年でも6年でも若い人たちがまちに住むというのは非常によいことだと思います。逆に聞いた話では、毛長の向こう側の谷塚などからは年寄りを足立区のアパートに住まわせる。要するに福祉行政が非常にしっかりしているので、年寄りを足立に送ろうという話も耳に入ってきています。だから年寄りと呼び込むのか若い人と呼び込むのか、どちらがよいかということですね。

来た人が全部戻るわけではなくて、若い人たちというのはほとんどが根無し草です。だからどこに住むのかといえば、一番自分の住みやすいところに住むと私は思います。

田中充部会長：確かに何割かは締約するということはあるでしょうし、住んでもらうことは初めの一步ということはあるかもしれませんが。確かにつまみ食いされるということはあるかもしれませんが。それはそれで個人にとってみれば、福祉の手厚いところ、あるいは子育ての手厚いところにライフステージを変えて住んでいきたいというものはあるかもしれません。それはそれで個人にとっては合理的な選択かもしれません。自分が納める税金をそのように使ってもらいたいということかもしれません。

今度は三つ目の柱で、区民が協働して進化し続けるまちというキーワードです。進化というのは今までにない言葉だったかと思います。左の課題の中にあまりなかったとは思いますが。いずれにしても、こちらは区民が協働する。さまざまな立場の区民、あるいは世代の区民が協働していくということです。それから、そのまち自体が更に大きく発展していく、ある種の前進していくというポジティブなイメージをここで訴えていると思います。先ほどもプラスの面を伸ばしていくということだったかと思います。このあたりの表現も含めていかがでしょうか。

下の2行の説明書きにもありますが、地域の資源はおそらく自然資源であったり、あるいは社会資源があると思います。もちろん人的資源もあると思います。それから

インフラ事業というのは、いわゆる開発でしょうか。エリアデザインも含めた開発事業があるということでしょうか。このような地域資源・インフラを活かして更に発展する可能性を伸ばしていくということかと思います。

四つ目の柱で、将来を見据えた計画性のあるまちというキーワードで整理していただきました。特にこの将来的な負担について、高齢化社会、あるいは少子化社会の中で非常に税収が落ちていくということです。あるいは、高齢者に対する福祉的な負担が増えてくるということです。こうした負担までを考慮し、そうした地域への貢献還元重点を置いた次代につないでいくまちをめざすという趣旨のご説明があります。この点はいかがでしょうか。先ほど出たキーワードで追加の点はよろしいでしょうか。今あるものを末永く使っていくというものも大事だという指摘がありました。計画性のあるまちの中に入っているということでもよろしいでしょうか。

およそ今四つの方向性についてご議論をいただいて、全体を通じていかがでしょうか。

有馬委員：先ほどの地域資源ですが、こちらは行政の方でもハードの地域資源、そしてソフトの地域資源などがこのようにリストアップされて、こちらをどのように連携したらよいか、伸ばしたらよいか検討したらよいと思います。ハードでいえば西新井大師や、それから花畑公園も東京にある5,500公園の中で医療・介護のコストダウンの面でコンセプトと施設設計などが素晴らしいということで国交省関係の公園緑地協会から表彰されています。ソフトで言えば足立の花火、獅子舞、そして光の祭典など、リストアップを改めてするとよいと思います。

田中充部会長：先ほども出た基本計画をこの後つくることになるときには、そうした個々の課題に着目していくことになると思います。ぜひそのようにつないでいきたいと思います。

（２）将来像を設定した根本となる考え方（基本理念）まとめ

田中充部会長：さて、基本理念と将来像を設定した根本となる考え方、あるいは基本となる考え方というのがあります。こちらが地域力とユニバーサルデザインという二つのキーワードでくくられており、少し違和感がある気もするのですが、よろしいでしょうか。地域力というのは、絆という言葉に置き換えているのですね。絆というのは人と人とのつながりとか結び付きとか、あるいは信頼性といったところですが。ここで町会・自治会というのは前面に出ていますが、それだけではないと思います。家族の絆、それからまさに地域のコミュニティの中で隣近所の絆。あるいは、もう少し大きな自治会・町会単位の絆。更にその外側にある行政・事業者・住民との絆などがあるのだらうと思います。多層的にその絆というのがあって、それらを含めてこちらが地域力であるということです。この点特段追加はありませんか。

吉田委員：〇〇力という言葉が最近言われますが、地域力、地域全体の絆というのは必要です。人間力ということは、住んでいる人間の子どもたちのこれからの教育のこととも含めますが、人間力というのは、そのような意味でも考えた方がよいと思いました。

田中充部会長：こちら事務局で整理をしていただいた上の四つの将来像から、地域力というキーワードを抽出してきた経緯、考え方とはどのようなことですか。

地域計画連合：将来像から抽出したというよりは、皆さんのお話の中で根本的に人や、あるいは地域をベースにそこから主体的に何か動かしていくまちづくりが必要であるとか、そういったご意見が見られていましたので、町会・自治会だけに限らず、確かに発言の中で足立区を良くしていきたいと願う区民の熱い思いをぜひ活かしていきたいというものがありまして、そういったところを拾い上げて設定しました。

田中充部会長：そうすると矢印の位置が、将来像から基本理念が抽出されるのではなくて、基本理念の上に将来像があるのでしょうか。この矢印の向き方が逆かもしれません。その上で地域力がよいのか、あるいは人間力がよいのか、あるいはまさに絆というものを直接うたい込んだ方がよいのかということがあるかもしれません。いかがでしょうか。見出しと内容という二つに分かれていますが、見出しが地域力で、内容がこちらに書いてある説明文ですが。

大きく違和感はありませんか。大丈夫でしょうか。人間力よりも、場合によっては区民力とかそういったものの方がよいかもしれません。地域力の方が広い概念でしょうか。おそらくそこで活動をしている事業者であったり、行政であったり、あるいは場合によっては地域が持っている資源、あるいは歴史・伝統といった蓄積されたものがすべて活かされるということかもしれません。ですからここには絆とか、住民同士のつながりということが想定されていますが、もう少し広い概念で行くと、今申し上げたように区民と事業者、区民と区、あるいは区民同士、あるいは地域のさまざまな資源、自然資源・歴史資源、そして社会資源、こういうものが持っているポテンシャルを活かすということでしょうか。仮に地域力としたら、中身を少し加筆した方がよいような感じでしょうか。

それから、むしろ区民に注目するなら、まさに区民力という区民同士が持っているポテンシャル、あるいは区民が持っている絆といったものを使っていくという部分に区民が注目するならば、そこに焦点を当てるという考え方があろうかと思います。よろしいでしょうか。

もう一つ、ユニバーサルデザインはカタカナ用語です。こちらは福祉をやっている方、まちづくりをやっている方には比較的なじみのある言葉ですが、なかなか一般区民は何であるか分かりにくいです。時にはバリアフリーと混同することもあります。

こちらについてはいかがでしょうか。

吉田委員：足立区に住んでいるから、足立区を愛する心とか、そのようなことの方が分かりやすいです。地域力というのは確かに悪くはないと思います。もっとパッと言葉が出るようなものがよろしいと思うのですが。

田中充部会長：地域力は硬いですか。足立区を愛する心はいかがでしょう。

吉田委員：それならば区民力でしょ。

田中充部会長：他にいかがでしょう。

田中忠穂委員：基本理念というのはどうしてもおおざっぱで、大きく包含するような言葉だとは思いますが。それで行くと、地域力というのはあらゆる人、地域の特性などいろいろなものを含める力を持っていると思いますので、私は地域力でよいと思っています。先ほど区民力、人間力とありましたが、それも含める形で地域力というのはあると思っています。

乾委員：私も同意見です。説明の部分に先生がおっしゃるように、その地域が持っている例えば伝統文化とか、そんなようなものを含めていただきたいと思います。

田中充部会長：地域力とするならば、もう少しきちんと概念を書き込んだ方がよろしいかと思います。吉田委員が言うのは、むしろ区民の心とか、愛する気持ちとか、思いといったことをもっと前に出したいというご意見だと拝聴しました。そうすると、地域力とは別に、愛する心といったものを立ててもよいのかもしれませんが。こちらは2項目でなければいけないのではなく、たまたまここでは2項目に整理したのだと思いますので、もう一つソフト面も区民の思いというものが基本理念の柱になるのだという発想はあるかもしれません。

ユニバーサルデザインはいかがでしょう。これでよろしいですか。

長谷川委員：あまりはっきり覚えていませんが、ここ2～3年役所の方で出されたいろいろなパンフレットのスローガンなどを見ていると、アピールするようなスローガンがあったような気がしています。例えばこの地域力に代わるような言葉として、先ほどご意見もありましたが、確か足立愛という言葉が使われていたパンフレット、小冊子を見掛けました。それからユニバーサルデザインについては、記憶があまりはっきりしませんが、何かもう少し資料に書いてあるようなやさしいまちづくりに近いような言葉使いがされていた気がします。そのあたりをもう少し参考に見ていただきながら、言葉を選んでいただくというのも一つの方法かなと思います。

乾委員：やはりこのカタカナ用語のユニバーサルデザインは分からない方が多いと思います。人にやさしいまちのような言葉でよいのではないかと思います。

田中充部会長：ユニバーサルというのは、宇宙という意味です。宇宙一般のデザインということです。非常に共通性のある普遍的なということです。

田中忠穂委員：おそらく一般の人は、ユニバーサルデザインと言っても耳慣れない言葉です。ましてそれであれば、概念がおそらく分からないのではないのでしょうか。だからもっとやさしい言葉でやった方がよいのかもしれないし、もし曖昧さを持つのであればこれでよいのかもしれない。

田中充部会長：今ご提案があったように、人にやさしいまちとしましょうか。こちらはまちづくりの部会ですので、ある種のハードを中心に、ソフトも含めたまちのあり方を考えていく部会だと思います。すると、やっぱり人にやさしいまちということでしょうか。

よろしいでしょうか。事務局で何か追加のコメントがありますか。

基本構想担当課長：補足ということではありませんが、他の部会では区民力というのを、住民力という表現をされていました。それよりも地域力だろうという議論もされています。あとは部会長に調整してまとめていただけると、ある程度でき上がっていく気がします。

田中充部会長：そうしましたら、この後の段取りとしては、全体会に報告する流れになるわけです。12月2日に全体会が、1か月後先にあるということで、それぞれ四つの部会が動いていて、この4部会から報告されることになります。従って、まだ若干文言調整のタイミングはありますが、ひとまず今日、ま⑤の議論をしていただきましてこちらを整理したいと思います。それでここから先は今日のご議論を踏まえて、座長と言うか部会長に一任をいただいて、整理をさせていただくということでよろしいでしょうか。

(意義なし)

田中充部会長：ありがとうございました。また最終案がまとまりましたら、皆さんにフィードバックさせていただきますし、先ほど事務局の説明では、11月下旬ぐらいに公表で、ホームページ上にこの案を載せることもあるようですので、その前には確認をいただくような進め方とさせていただきたいと思います。そうしましたら、このまとめの作業については一任ということで本日はどうもありがとうございました。

部会の役割としてはここまでとなりまして、あとはこの後の進め方等の追加があるかと思しますので、事務局からお願いします。

2 事務連絡

基本構想担当課長：次回の日程について、12月2日の水曜日、午前10時から12時でございます。会場は本日と同じです。ご欠席となる場合には、これまでと同様に電話やメール等で事前連絡をいただきたいと思います。お手元に都市建設部からのアンケート用紙の依頼がございますので説明をさせていただきます。

都市建設部開発指導課長：現在足立区では集合住宅の建設につきまして、環境整備基準による指導を誘導しているところでございます。委員の皆様からもワンルームの規制につきましては、議題、課題として挙がっているところでございます。都市建設部ではワンルームマンション含めた集合住宅に関する条例制定を予定しておりまして、この条例制定に伴う主な考え方ですが、資料3の(2)から(8)のような、主なところでは住戸面積25平米以上、住戸の上限としては29戸まで。これ以上つくりたい場合は75平米以上のファミリータイプの住戸とすることで緩和するといった、原則現在整備基準で指導しているワンルームに該当する部分を抜き出して条例化を目指す予定です。ご意見等がありましたら、お手元の資料のご意見欄にご記入をいただいた上、10月中に返送をいただければと存じます。また質問等ございましたら、開発指導課の室橋までお願いします。お忙しいところ誠に申し訳ございませんが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

基本構想担当課長：いろいろ皆様にご議論をいただいた関係で、ぜひ有意義なご意見をよろしくお願いします。

田中充部会長：それでは本日はどうもありがとうございました。少し早いですが、今日は大変活発なご議論をいただきましたし、皆さんからまちづくりの将来像、そして基本的な考え方についてご議論をいただきましたので、私と事務局で調整をし、整理させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

午前 11:45 閉会